

## 中学生以下の医療費無料制度について



西館 聖美 3年  
西館議員 (伊奈中)

私の住んでいるつくばみらい市では、中学生以下の医療費負担はどのようなになっているのでしょうか。中学生以下の児童生徒に対する支援について教えてください。

### 【市長答弁】

近年、全国的に少子高齢化の波が深刻になってきています。これは市内の小中学校においても、児童生徒数の減少という形で表面化しています。学校には空き教室が目立ち、部活動も所属する部員が少なくなり、何となく活気が無くなってきていると思います。運動部の友だちが、「もっと部員がいれば、いろいろな練習ができ、大きな大会に行けるのになあ。」と話していました。このままだと、さらに児童生徒数は減少を続けていくと思います。

私は、何とかして児童生徒数を増やす手立てはないかと調べてみました。その結果、全国では中学生以下の医療費は全額市町村で負担してくれるという制度を見つけました。これにより、児童生徒数の減少をストップさせるほか、市全体の人口も増加の傾向に向かわせることが期待できると思います。

市内では、みらい平地区の住宅開発が順調に進んでおり、人口もさらに増えてきますので、伊奈中学校の生徒数も増加していくものと考えています。現在、茨城県内の市で、平成23年度毎月人口が増加したのは、唯一つくばみらい市だけです。今後の発展が期待されています。それでは、医療費の助成制度についてご説明します。医療費の助成制度は、茨城県の制度で「マル福」と呼ばれ、医療費の

自己負担分の一部を茨城県と各市町村で50%ずつ助成しています。西館議員のおっしゃる医療費の無料化に関しては、「小児マル福」というものです。茨城県の制度では、小学3年生までが対象ですが、西館議員がおっしゃっているように、私も、子育て支援については、大変重要なものと考えていましたので、2年前の市長選挙のマニフェストの一つに、「所得制限の撤廃と小児マル福を小学6年生まで拡大」を掲げました。私が市長に就任した1年目の去年の3月議会において、「医療福祉費支給に関する条例」を改正し、昨年10月から市独自で対象者を小学6年生までに拡大し、併せて所得制限もなくして新しくスタートしたところです。これにより、

市では、小学生までの医療費を軽減し、子育て世代への経済的支援が図られることから、今後児童生徒の増加につなげていくものと考えています。今回のご質問のように、全国的には対象年齢を中学生まで拡大しているところもあるようです。中学生までのさらなる拡大については、今後の検討課題とさせていただきます。

### 【保健福祉部長答弁】

茨城県のマル福制度を超えた部分については、全額市の独自の事業となるため財源の確保が必要となってきますので、対象者を中学生まで拡大するためには、さらなる財源の確保や近隣の動向もみながら、今後検討していかなければならないと考えています。

## 通学路の街灯について



海拓 たくみ 3年  
井上 みのる 議員 (谷和原中)

僕の通学路になっている陽光台3丁目の県道沿いには、街灯がほとんどありません。部活動

を終えて下校する夕暮れには、周りは薄暗く、見通しが悪くなります。歩行者からは自転車のライトで僕の存在が分かるとは思います。僕からは自転車のライトだけでは歩行者の存在が分かりません。実際、下校途中でランニングをしている人に気づかずに衝突しそうになったことや、歩道の段差が見えず、バ

